

津波監視システムに用いるデータのうちGPS波浪計データの受領開始について

2014年3月31日

当社は、発電所の初動体制や復旧作業に役立てるため、津波を早期に精度よく検知する津波監視技術の研究をおこなっています。

本研究では、種々の観測技術から得られたデータ(表1)を1つの画面で表示し、視覚的かつ定量的に津波襲来を把握できる総合的なシステム(津波監視システム)(図1)の構築を目指しており、これまで、VHF^{*1}レーダーの設置(2013年3月5日、2013年7月10日お知らせ済み)や、独立行政法人海洋研究開発機構(以下、「JAMSTEC」という。)のDONET^{*2}のデータ提供に係る協定締結(2013年10月10日お知らせ済み)を進めてきました。

このたび、津波監視システムに用いるデータのうち、GPS 波浪計データ受領のためのシステム(図2)運用開始の準備が整い、データ受領を開始することとしましたのでお知らせします。

今回運用を開始するシステムは、電気事業連合会が、国土交通省港湾局のGPS 波浪計データを、電力施設における津波監視の強化のために専用のサーバーにて受領し、そのデータを専用回線を通じて浜岡原子力発電所においてリアルタイムで監視するものです。

引き続き、現在開発を進めているレーダーおよび高感度カメラなどの津波監視技術と組み合わせることにより、津波の早期検知や監視精度の向上に取り組んでまいります。

表1 津波監視システムに用いるデータ

	観測技術	観測するデータ
1	GPS 波浪計	国土交通省港湾局が沖合約20kmに設置しているGPS 波浪計により、潮位を観測
2	DONET	JAMSTECのDONETにより、紀伊半島沖合における地震の強さ、潮位を観測
3	レーダー	陸上に設置したレーダーにより、発電所前面海域における海表面の流速・流向を観測
4	高感度カメラ	陸上に設置した高感度カメラにより、沖合および発電所近傍における潮位、被災状況を監視

今回システム運用を開始する範囲

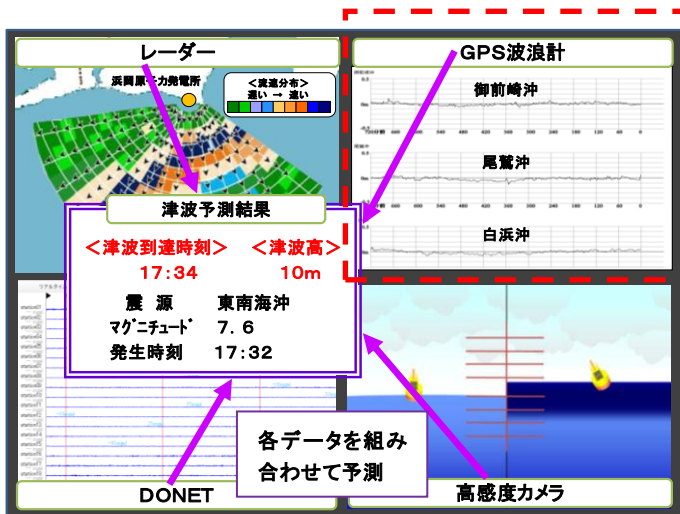


図1 津波監視システムのイメージ

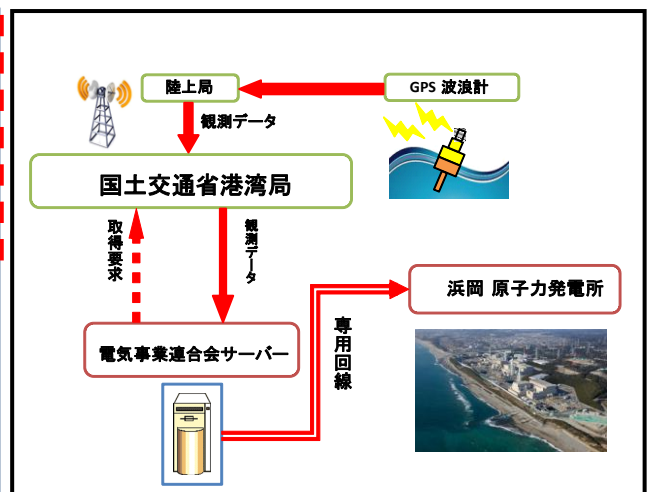


図2 GPS 波浪計データ受領のためのシステムイメージ

※1 VHF とは、very high frequency の略で、周波数が 30MHz～300MHz の電波のことです。

※2 DONET は、JAMSTEC が東南海地震および南海地震を対象としたリアルタイム観測システムの構築と、地震発生メカニズムの解明等を目的に開発した、海底ケーブルネットワーク型の観測システムです。2013 年 10 月 10 日に、JAMSTEC、三重県尾鷲市、および当社との間で、DONET のデータを提供いただくことについて協定を締結しています。

以 上